

解答解説

2024最終・社福国試対策

医学概論 (1～6+④)、心理学と心理的支援 (7～12+④)

社会学と社会システム (13～18+②)

／ 糖尿病についての次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 現在、糖尿病が強く疑われる人と、糖尿病の可能性が否定できない人の合計は約1000万人である。
2. 糖尿病は、膵臓のランゲルハンス島の α 細胞から分泌されるインスリン過剰によって発症する。
3. 三大合併症とは、糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症、糖尿病性神経障害である。
4. I型糖尿病は中高年に、II型糖尿病は若年者に多く発症する。
5. 治療の基本は薬物療法で、必要に応じて食事療法と運動療法を行う。

【正答】3

1. 誤り。2012（平成24）年の国民健康・栄養調査の結果によると、糖尿病が強く疑われる人は約950万人、糖尿病の可能性が否定できない人は約1100万人で、合計2210万人と推定されている。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規）
2. 誤り。糖尿病は、膵臓のランゲルハンス島 β 細胞より分泌されるインスリンの不足が原因で発症する。インスリンの筋肉・脂肪・肝臓への作用不足がおこり、血液からこれらの臓器へ取り込まれるべきブドウ糖が、血液中にとどまり続けることによって高血糖状態となる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規）
3. 正しい。糖尿病の3大合併症は糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症、糖尿病性神経障害であり、網膜の毛細血管、毛細血管でできている腎糸球体など、毛細血管の障害によって症状が発症する。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規）
4. 誤り。I型糖尿病は、小児～思春期の発症が多い。II型糖尿病は、40歳以上の中高年の発症が多い。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規）
5. 誤り。糖尿病治療の基本は食事療法と運動療法を行い、必要に応じて経口血糖降薬あるいはインスリン製剤などの薬物を用いる。（『精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー1 医学一般』へるす出版（2013年2月22日第1版第3刷発行）P114参照）（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規）

2. 老化に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 40歳から身長と座高は減り始め、生涯で男性は5cm、女性は10cm程度身長が短縮する。
2. 高齢期になると、残気量が減少するため肺活量は増加する。
3. 老人性難聴は伝音難聴で、低音領域から次第に聴き取りにくくなる。
4. 50歳以降、大脳の前頭葉を中心に脳の重量と容積は増加する。
5. 短期記憶は加齢とともに徐々に低下する。

【正答】5

1. 誤り。ヒトの身長と座高は40歳代から少しずつ減り始め、60歳以降は減少がスピードアップする。生涯で男性は平均3cm、女性は平均5cm程度身長が縮まる。原因は脊椎骨の間にある椎間板の弾性構造が圧縮され、つぶれてきて脊柱が短くなる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
2. 誤り。呼吸機能は肺活量によって評価できる。肺全体の容量は年齢の影響を受けないが、下部肺野では呼吸によって出入りしない残気量が増加するために高齢者の肺活量は低下する。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
3. 誤り。難聴には外耳、中耳の障害による伝音難聴と、内耳における神経の障害などによって起こる感音難聴がある。老人性難聴は感音難聴で、高音領域から次第に聴き取り難くなり両耳ともに難聴が進行することが多い。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
4. 誤り。50歳以降になると、脳の重量と容積は確実に減少し始め、脳は小さくなっていく。特に大脳の前頭葉が目立ち、原因としては神経細胞（ニューロン）や神経線維が減っていくためである。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
5. 正しい。記憶には長期記憶、短期記憶、即時記憶があるが、最近の記憶が低下する短期記憶は加齢とともに徐々に低下する。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）

3 国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 国際生活機能分類（ICF）は、障害を機能障害、能力障害、社会的不利に分類した。
2. 国際障害分類（ICIDH）は、障害を心身機能、構造、活動、参加に分類した。
3. ICFはICIDHの考え方を根本的に変え、新しい障害分類に改訂した。
4. ICFによる参加とは、個人による課題や行為の遂行のことである。
5. ICFによる活動とは、生活・人生場面へのかかわりのことである。

【正答】3

1. 誤り。障害を機能障害、能力障害、社会的不利に分類したのは国際障害分類（ICIDH）である。国際生活機能分類（ICF）では、障害をマイナス面だけでなく中立的な表現に変更し、用語として心身機能・構造、活動、参加を使用した。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
2. 誤り。障害を心身機能、構造、活動、参加に分類したのはICFである。ICIDHは障害を機能障害、能力障害、社会的不利に分類したが、環境の影響は無視できないとしたカナダモデルなどの批判もあった。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
3. 正しい。ICIDHはWHOにより1980年に発表されたが、障害はマイナスであるという視点によるものであった。しかし、障害者には健康な機能・能力というプラス面もあり、社会的有利さもあるとの考えのもとに根本的に考えを変えた障害分類として2001年にICFが発表された。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
4. 誤り。ICFによる参加とは、社会や家庭などへの関わりのことをいう。働くことやスポーツをすること、地域の中での役割遂行などをいう。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
5. 誤り。ICFによる活動とは、課題や行為などの具体的遂行をいう。読むことや書くこと、コミュニケーションをとることや家庭生活を行うことをいう。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）

4 健康に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 疾病予防の3段階説の早期発見・早期治療は第1次予防である。
2. プライマリヘルスケアは「すべての人に健康を」を基本理念とするWHOによる健康戦略である。
3. 健康寿命は女性に比べて男性の方が長い。
4. 疫学とは、個人の健康に関する学問体系である。
5. 介護予防とは、高齢者が要介護状態になるのを防ぐことで、既に要介護状態の場合は対象外である。

【正答】 2

1. 誤り。疾病の予防は予防医学において一次予防、二次予防、三次予防に分類されている。一次予防は健康増進と発病予防、二次予防は疾病の早期発見・早期治療、三次予防は再発予防、リハビリテーションである。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
2. 正しい。WHOは1978（昭和53）年にアルマアタ宣言を行い、「すべての人に健康を」達成目標としてプライマリヘルスケアという概念を発表した。プライマリヘルスケアは具体的活動8項目と、住民主体の原則からなるものである。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
3. 誤り。健康寿命とは、人間の寿命において「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」とWHOによって定義されている。2010（平成22）年における健康寿命は男性が70.42歳、女性が73.62歳であった。2013（平成25）年の厚労省発表では、男性が71.19歳、女性が74.21歳であり、平均寿命と同様に女性の方が長い。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
4. 誤り。疫学とは、個人の健康ばかりでなく、地域や特定集団の健康に関し、疾病の原因や発生状況を統計的に明らかにする学問である。疫学の対象は感染症が多いが、近年は生活習慣病や、がん、難病なども対象になっている。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
5. 誤り。介護予防とは、高齢者が要介護状態になることを防いだり、要介護状態の人が悪化するのを防ぎ、改善を図ることであり、2006（平成18）年に改正介護保険法に導入された。要介護状態の場合は、現在以上の身体状況の悪化を防ぎ、改善に努めていくことが定義に含まれている。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）

J 器官の構造と機能についての次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 鼻から肺内に吸い込み、肺胞内に取り入れた空気と、そこを流れる血液との間で行われるガス交換を内呼吸という。
2. 食物の消化と吸収の大部分は大腸で行われる。
3. 原尿は糸球体で濾過される前の状態である。
4. 膵臓はホルモンを分泌する外分泌と、膵液を分泌する内分泌機能を有する。
5. 筋肉は骨格筋、心筋、平滑筋に分類されるが、骨格筋は随意筋である。

【正答】5

1. 誤り。呼吸には内呼吸と外呼吸の2種類があり、肺胞内に取り込まれた空気と、そこを流れる血液との間で行われるガス交換を外呼吸という。内呼吸とは、細胞自身の呼吸のことで、細胞は周辺を流れる血液から酸素、栄養素を取り入れる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
2. 誤り。食物は食道から胃に入り、粥状になったのち小腸に入る。小腸は十二指腸、空腸、回腸よりなり、十二指腸はさまざまな消化酵素を分泌し炭水化物やたんぱく質、脂肪の分解を行い、空腸、回腸に運ばれる。小腸では消化・吸収の90%以上を行う。大腸は消化作用がほとんどなく、水分を吸収して糞便を形成し、排泄するのが役割である。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
3. 誤り。血液が糸球体で濾過されてできた成分を原尿という。その後原尿は尿細管に運ばれ、そこで原尿に含まれている血球や電解質、栄養素などは再吸収されて残りの成分が尿となる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
4. 誤り。内分泌とは、ホルモンを血液中に分泌することで、外分泌とは、胃液や膵液などを体外に通じている消化管に排出することを意味している。膵臓はインスリンやグルカゴンなどのホルモンを分泌する内分泌機能と、消化酵素を含む膵液を十二指腸に分泌する外分泌機能を有する器官である。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
5. 正しい。筋肉は骨格筋、心筋、平滑筋に分類される。骨格筋は意識的に動かすことができる随意筋である。心筋は心臓の筋肉、平滑筋は内臓や血管の筋肉であり、いずれも自律神経によって支配される不随意筋である。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）

6 高齢者の病態に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 過度の安静や長期臥床は廃用症候群の原因となる。
2. 褥瘡の好発部位は、腰部、大腿骨体部、胸骨部などである。
3. 高齢者では高血圧、高蛋白血症、甲状腺機能亢進症などで浮腫をきたしやすい。
4. サルコペニアとは、高齢になって筋力や活力が衰えた段階をいう。
5. フレイルとは、進行性および全身性の骨格筋量および骨格筋力低下がみられる状態である。

【正答】1

1. 正しい。廃用症候群とは、本来ある生理的機能を十分に使用しなかったためにその生理的機能が減弱し、その結果生じる一連の症候である。その原因は過度の安静や長期臥床によるものである。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
2. 誤り。褥瘡の好発部位は体重のかかりやすい仙骨部、臀部、大腿骨頸部、肩甲骨部、踵部などである。腰部、胸骨部など体重がかかりにくい場所では褥瘡はできにくい。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
3. 誤り。高齢者の浮腫の原因として末梢循環不全、低蛋白血症、甲状腺機能低下症などの内分泌疾患がある。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
4. 誤り。サルコペニアとは、進行性及び全身性の骨格筋量及び骨格筋力の低下を特徴とする症候群である。筋肉量の低下を必須項目として、筋力または身体能力のいずれかが当てはまればサルコペニアと診断される。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
5. 誤り。フレイルとは、一般社団法人日本老年医学会は、高齢になって筋力や活力が衰えた段階であるとしている。フレイルは「虚弱」を意味する英語「Frailty」からきており、健康と病気の間段的段階であり、この段階から進行すると要介護状態となる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）

① 精神疾患の診断に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 国際的診断分類として、米国精神医学会の作成によるICDと、WHOが作成したDSMが用いられている。
2. DSMは診断カテゴリーにアルファベットのFコードを使用している。
3. 精神疾患関連の教科書は、DSM分類に準拠したものが使われている。
4. DSM-5では新しいカテゴリーとして、神経発達症群が登場した。
5. DSM-5では、操作的基準と多軸診断が使われている。

【正答】4

1. 誤り。精神疾患の多くは検査データがないので、医師の面接によって診断される。そのため、医師ごとに診断のばらつきが大きかったため、診断の基準を明確にするために国際的診断分類が行われるようになった。それがアメリカ精神医学会によるDSMと、WHOが作成したICDである。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
2. 誤り。ICD-10では診断分類にアルファベットのFコードを使用している。ICD-10は全疾患の分類で、A-Zまでのアルファベットを使用しており、精神疾患はFコードを使ってF0～F9まで10種類に分類している。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
3. 誤り。WHOの作成したICDは現在ICD-10で、さまざまな国や地域での使用を考慮して使いやすい工夫がされている。わが国では医療、行政、教育などの分野に幅広く使われており、精神疾患関連の教科書もICD分類に準拠したものが多い。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
4. 正しい。アメリカ精神医学会は2013（平成25）年に新たな診断基準として、DSM-5を発表した。その診断基準では、新たに神経発達症群というカテゴリーがつけられた。神経発達症群とは、「日常生活、社会生活、学習、仕事上で支障をきたすほどの発達上の問題が、発達期に顕在化したもの」で、知的能力障害、自閉スペクトラム症、限局性学習症などが含まれている。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）
5. 誤り。DSMの診断基準は、操作的基準（診断のための具体的な基準や手順が示されている）とI軸～V軸までの多軸診断システムが、1982（昭和57）年のDSM-IIIからDSM-IV-TRまで用いられてきた。2013年に発表されたDSM-5では、I軸からIII軸の間に重なりがあるため、多軸診断は廃止された。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版）

② ヒトの成長・発達に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 新生児期とは出生から1歳までをいい、幼児期とは1歳から3歳までをいう。
2. 身長は生後1年で3倍に、体重は5倍に増加する。
3. 視力と聴力は、出生時よりほぼ成人並みである。
4. 人見知りは3～5歳がピークで、7歳頃には消える。
5. 喃語は3か月頃よりみられる。

【正答】 5

1. 誤り。「子どもの年齢区分」における新生児期とは、出生～生後1か月をいう。乳児期は出生～1歳、幼児期は1歳～6歳をいう。（『精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー1 医学一般 第1版』）
2. 誤り。出生時の身長は約50cm、体重は約3000gであり、生後1年で身長は1.5倍、体重は約3倍に増加する。（『精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー1 医学一般 第1版』）
3. 誤り。大脳皮質視覚中枢が完成するのは2歳頃で、3歳児の6割は視力1.0以上となり、5歳では8割以上が視力1.0以上になる。大脳聴覚中枢が完成するのは2歳頃で、5～6歳頃まで聴覚機能は発達する。（『精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー1 医学一般 第1版』）
4. 誤り。生後6か月頃になると、知っている人にはほほ笑みを返し、見知らぬ人には顔をそむける「人見知り」がみられるようになる。人見知りのピークは1～2歳頃で、5歳頃には消える。（『精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー1 医学一般 第1版』）
5. 正しい。生後3か月頃になると、あやすと高さ、長さが一定の発声が発せられる。養育者に向かって自発的、反応性に発声のみられ、喃語が出現する。（『精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー1 医学一般 第1版』）

③ 疾患と関連する症状の組合せのうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 心筋梗塞 ————— 激しい頭痛
2. パーキンソン病 ————— 間欠性跛行
3. 一過性脳虚血発作 ————— 脳血管破裂
4. 脳塞栓 ————— 心房細動
5. ダウン症候群 ————— ホルモン分泌異常

【正答】4

1. 誤り。心筋梗塞は冠状動脈が閉塞し、心筋虚血による心筋壊死をきたす疾患で、メカニズムの同じ狭心症と併せて虚血性心疾患という。症状は30分以上続く胸痛で、狭心症はニトログリセリンが有効であるが、心筋梗塞では改善がみられない。不整脈の出現も多く、死亡の原因となる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』）
2. 誤り。パーキンソン病は中脳より分泌されるドーパミンの低下によって発症する疾患で、振戦、固縮、無動を3主徴とする。歩行や姿勢の異常もみられ、歩行時には両手を振らず前屈で小刻み歩行となり、つき足歩行と呼ばれる。間欠性跛行は歩行中に痛みやしびれが出現し、休憩すると痛みが軽減し、また歩行できるようになる。脊髄管狭窄症でみられる症状である。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版）
3. 誤り。脳血管疾患には脳血管が破れて発症する疾患と脳血管が血栓で詰まる疾患がある。一過性脳虚血発作は血栓によって小動脈が閉塞するがすぐに溶解する。意識障害や麻痺などの症状は後遺症を残さず24時間以内に消失する。脳血管の破裂は脳出血やくも膜下出血でみられる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版）
4. 正しい。脳血管の閉塞は脳梗塞と呼ばれ、脳梗塞には脳血栓と脳塞栓がある。脳塞栓は脳以外の血管でできた血栓が脳血管に運ばれて閉塞を起こす。心房細動は不整脈の一種で、心房内に血栓をつくりやすく、この血栓が脳血管で詰まって脳塞栓となる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版）
5. 誤り。ダウン症候群はホルモン分泌異常でなく、染色体異常によって起こる疾患である。ヒトの染色体は22対44本の常染色体と、XX、XYの性染色体によって構成されている。ダウン症候群は21番染色体の異常（トリソミー）によって発症する疾患である。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版）

④

国民健康づくり対策に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 生活習慣病対策として重点的に取り組むのは感染症、精神疾患対策である。
2. 2000（平成12）年から2010（平成22）年までを対象とした健康日本21の目標は達成された。
3. 第2次健康日本21は、健康寿命の延伸などを目標とした「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動」である。
4. 特定健診は65歳以上を対象とし、皮下脂肪型肥満に着目した健康診査である。
5. 健康増進法は、高齢者の健康増進を目的として制定された。

【正答】3

1. 誤り。感染症、精神疾患は生活習慣による発病は少ない。生活習慣病対策の対象となるのは糖尿病、脂質異常症などである。従来、加齢による成人病という概念があったが、生活習慣を改善することにより疾病の発症、進行が予防できる疾患を生活習慣病と命名し、健康づくり対策に導入されることになった。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』）
2. 誤り。健康日本21は2000（平成12）年から2012（平成24）年まで行われ、9分野59項目の目標を掲げた。2010（平成22）年までの目標達成状況によると、全体の6割の項目で一定の改善がみられたが、日常生活における歩数の増加や糖尿病合併症の減少目標など、むしろ悪化したものもあった。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版）
3. 正しい。国民健康づくり運動は20世紀後半から行われており、2000（平成12）年から2012（平成24）年までの運動を健康日本21と名づけた。厚生労働省は健康日本21の次期として、2013（平成25）年から2022（平成34）年までの「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動（第2次健康日本21）」を発表した。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版）
4. 誤り。メタボリック症候群は内臓脂肪型肥満を背景とした生活習慣病である。メタボリック症候群検出のための健診を特定健診といい、40歳以上の国民健康保険・被用者保険の加入者に対して実施されている。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版）
5. 誤り。健康増進法は健康日本21の推進や、健康づくり、疾病予防などの法的整備の必要性から国民の健康増進を図り、国民保険の向上を目的として2002（平成14）年に制定された。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版）

7 感情に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 気分は、心拍数や呼吸などの生理的な反応を伴い、瞬間的に強く発せられる。
2. 情緒は、一定の状態で、長時間持続する。
3. 新生児微笑は、特に人の顔や声に対して誘発される。
4. 社会的参照とは、乳児が泣いたり、怒ったりしているとき、その感情をなだめ安定化させることである。
5. アタッチメントとは、乳児と特定の人との間に結ばれる強い心の絆である。

【正答】5

1. 適切でない。この記述は、情動（情緒）である。感情は、情動（情緒）、気分、情操の3種に分類される。このうち、情動は、生理的な変化を伴う、一過性で強い感情である。また気分は、慢性で持続的な比較的弱い感情。情操は、教育や文化の影響の下で培われる価値づけを伴う感情である。（「教育臨床心理学中辞典」北大路書房P109,255～226参照）
2. 適切でない。この記述は、気分である。（「教育臨床心理学中辞典」北大路書房P109参照）
3. 適切でない。新生児微笑とは、生後すぐに見られる自発的な微笑である。外部の刺激とは無関係に生起するものである。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P27参照）
4. 適切でない。社会的参照（他者への問い合わせ）とは、例えば乳児にとって意味のあいまいな状況において、親などの情動表出を参照して自分の振る舞いを変えることである。（「発達心理学2」岩波書店61p）この選択肢の記述は、「情動調律」に関係する。情動調律とは、例えば親が子どもの感情状態に共鳴して、この共有された感情状態がどんなものかを言葉で伝えることである。（「心理臨床の場におけるリズムの生起に関する試論：プレイセラピーでのリズムカルなやりとりを手がかりに」中野江梨子 大学大学院教育学研究科紀要2011）P57,269参照）
5. 適切。アタッチメント（愛着）は、乳児の示す情緒的信号に対する養育者の情緒的応答のやりとりを軸に形成されていくと考えられている。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P28参照）

対人認知に関する次の記述のうち、ピグマリオン効果の説明として最も適切なものを1つ選びなさい。

1. ある側面において望ましい（または望ましくない）特徴を持っていると、他の側面においても望ましい（または望ましくない）と見なすこと。
2. 自分の弱さや欠点などの望ましくない特性を外集団の成員が持っていると考えようとする事。
3. 特定の対象に対して繰り返し接触することで、それに対する好意的な態度が形成されること。
4. ある集団の成員に対して、画一化された、固定的な見方が生じやすいこと。
5. 児童・生徒の学業成績や行動が、教師が生徒に対して期待する方向で成就されること。

【正答】5

1. 適切でない。これはハロー効果（後光効果、光背効果ともいう）である。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P92参照）
2. 適切でない。これは防衛機制の一つである投影によるもので、特に権威主義的パーソナリティに見られる傾向である。（『人間関係の社会心理学』サイエンス社P87）権威主義的パーソナリティとは、相手の職業や社会的地位によって、差別的な対応をしてしまう傾向のある人である。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P92参照）
3. 適切でない。これは単純接触効果である。人物のほか音楽等、様々な事物に対して見られる現象である。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P93参照）
4. 適切でない。これはステレオタイプ（紋切型ともいう）である。ある対象についてのイメージを、対象が含まれている集団全体に当てはめることである。（『心理学小事典』有斐閣P88参照）
5. 適切。教師の期待（プラスの場合も、マイナスの場合もある）が、生徒にとって自己成就的予言（生徒が、教師の期待を自分の姿だと思い込み、そのように行動しやすくなること）として機能するためと考えられている。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P93参照）

9 防衛機制に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

1. 男の子が父親のように強くなりたいと思い、父親のすることを真似して父親のようにふるまうことを置き換えという。
2. 子どもが弟や妹が生まれたときに、指しゃぶりが現れたり、一度外すことができたオムツを再びするようになるのは逃避である。
3. ほしい車が高額で買えないので中古車で我慢したり、上司に叱られて家族にあたりするような行動は合理化である。
4. 自分がずるく立ち回りたい人が、同僚がずるく立ち回ってるのではないかと思ったり非難したりする行動は投影である。
5. 対人関係がうまくいかず悩んでいる人が仕事に没頭したり、病気の不安のある人が検査結果のでもまで旅行にでかけて楽しむような行動は反動形成である。

【正答】4

1. 適切でない。他者を取り入れて自分と同一だと考え、自分の欲求を満たすことを「同一視（同一化）」という。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P51参照）
2. 適切でない。より未熟な発達段階にさかのぼることを「退行」という。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P49,51参照）
3. 適切でない。欲求の対象を本来のものと置き換えることを「置き換え」という。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P51参照）
4. 適切。自分の中で抑圧した感情を他者の中にあると考え、自分の欲求を満たすことは「投影」と呼ばれる。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P51参照）
5. 適切でない。不安、緊張、葛藤を起こす状況から逃れることを「逃避」という。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P51参照）

10 パーソナリティに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. フロイトは超自我（スーパーエゴ）と自我（エゴ）とイド（エス）の構造からパーソナリティをとらえたが、超自我の統制が弱いタイプは、自分の本来の欲求を抑圧しやすく神経症的であると考えた。
2. 反動形成や合理化といった防衛機制は、自我が脅威にさらされると無意識的に働くので、特定の個人においてはどの機制が働きやすいといった傾向はない。
3. シュプラナーは、価値の種類によってパーソナリティを分類したが、社会的な活動に熱心で、他者を愛し、奉仕することに価値を置く人は冷静型とされる。
4. YG性格検査（矢田部・ギルフォード性格検査）では、12の性格特性の量的な把握をめざすので、パーソナリティをいくつかの型に当てはめて診断することはしない。
5. ユングは、リビドーの向かう方向からパーソナリティを外向型と内向型に分けたが、さらに、4つの意識の機能（思考-感情、直感-感覚）の組合せから8つの類型に分類している。

【正答】5

1. 誤り。超自我（スーパーエゴ）は、「～すべき」「～してはいけない」という道徳的規制や禁止を与えるものであるから、それが弱いタイプは、本来の欲求のままに行動する傾向がある。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P196参照）
2. 誤り。自我が危機に瀕したとき、どの防衛機制が用いられやすいかという傾向は存在し、それがその人の個性となる場合も多い。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P50～51参照）
3. 誤り。生の形式の6類型のうちの社会型である。（『教育臨床心理学中辞典』小林利宣編 北大路書房P220参照）
4. 誤り。YG性格検査（矢田部ギルフォード性格検査）は特性論に基づいた検査であるが、性格を5つのタイプに分類することもできるようになっている。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P16参照）
5. 正しい。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P14参照）

// ストレス反応に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. うつ病は、脳の機能障害であるから、生活の中のストレスとは関係なく発症する。
2. バーンアウト（燃え尽き症候群）は、個人の資質やスキル不足の問題である。
3. 学習性無力感とは、対処することができない出来事を体験することによって、無気力、引きこもり、活動性の低下を見せるものである。
4. 適応障害は、ストレス因子がはっきりと同定されないことが多い。
5. 心的外傷後ストレス障害（PTSD）は、命の危険にさらされるような体験の後、フラッシュバック（侵入的回想）や回避行動、精神的過敏症状等の症状が3日から1か月持続するものである。

【正答】 3

1. 誤り。内因性のうつ病は、脳の機能障害による病気であるが、ストレスの持続も発症に関与する。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規P173参照）
2. 誤り。ストレスが非常に多い職場では、個人の対処能力では限界が伴い「極度の身体疲労と感情の枯渇を示す症候群」であるバーンアウト（燃え尽き症候群）が起こりやすい。特に医療・福祉というヒューマンサービスの現場は、感情労働が大きな部分を占めているので、共感疲労が起こりやすいといわれる。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規P170～172,P102参照）
3. 正しい。学習性無力感とは、ストレス事態において、何をしても対処できないという経験が続くと、無力感を学習してしまい、無気力、引きこもり、活動性の低下に陥ることである。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規P170参照）
4. 誤り。適応障害は、はっきりと同定されるストレス因子に対する行動や心理的症状をいう。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規P172参照）
5. 誤り。症状が3日から1か月持続する場合は、急性ストレス障害という。心的外傷後ストレス障害（PTSD）は、症状が1か月以上持続する場合をいう。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規P174～175参照）

12 フラッディング法 (flooding technique) の説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. クライエントに対して、イメージあるいは現実において、最も不安や恐怖の強い場面にできるだけ長時間さらし、不安・恐怖反応を消去させようとする。
2. 物事の一面しか見られず、自分自身の欲求や経験を人格に統合することができないでいるクライエントに対して、統合を目指せるように援助していく。
3. 集団で即興劇を演じさせることによって、クライエントが創造的自発性を発展させ、認知や態度を再構成できるように援助していく。
4. クライエントに、そう考える根拠・意味等を自問させることによって、クライエント自身が、不適切な自動思考を、適応的・合理的な思考に置き換えていく。
5. クライエントが、緊張や不安などの症状を「ありのまま」に受け入れ、今すべきことをするという「目的本位」の生き方を実行できるように援助する。

【正答】1

1. 適切。レスポナント条件づけを応用した行動療法の一つである。系統的脱感作法は恐怖・不安対象に、強度の弱いものから徐々にさらしていくのに対して、フラッディング法はいきなり最も強いものにさらすという違いがある。（「やさしく学べる心理療法の基礎」培風館P110～112参照）
2. 適切でない。ゲシュタルト療法の記述である。ゲシュタルト療法は、不健康な人は、物事の一面しか見ることができず、例えば出来事の悪い面しか気が付かず、良い面に気づくことができない。ゲシュタルト療法は、クライエントが、物事を意味のある全体として統合する（＝ゲシュタルトを作る）ことができるように援助をしていくものである。（「やさしく学べる心理療法の基礎」培風館P140参照）
3. 適切でない。心理劇（サイコドラマ）の記述である。創造的自発性とは、今までの（古い）場面にあって新しい適応的な行為ができ、また、新しい場面においても適応的な行為が可能になることである。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P205～206参照）
4. 適切でない。ベック（Beck,A.T.）の抑うつスキーマ仮説による治療法の中の認知的技法の記述である。自動思考とは、自分の意志とは関係なく自動的に浮かんでくる否定的な考えのことで、その根拠や意味、ほかの見方はできないかを自問していく。（「やさしく学べる心理療法の基礎」培風館P135参照）
5. 適切でない。森田療法の記述である。森田療法は、症状形成と固着のからくり（精神交互作用）に基いている。例えば不安をなくそうとすると、ますます不安に意識が向き、不安を増強させる悪循環である。（「やさしく学べる心理療法の基礎」培風館P180～182参照）

① カウンセラーの次の発言のうち、来談者中心療法における「感情の明確化」の応答例として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. あなたの感じている不安について、もう少し詳しく聴かせていただけませんか？
2. あなたが、人がたくさんいるところで不安になるのは、子ども時代の経験が影響しているのではないかと考えられます。
3. 病院の検査で異常がないと言われても、症状がとれず、このまま治らないのではないかという不安を感じていらっしゃるのですね。
4. あなたの就職が決まらないことについて、ご家族は何と言っていますか？
5. あなたは、これまで仕事をしながら、認知症のお母様の介護を一生懸命なさってこられ、ご立派だと思います。

【正答】 3

1. 適切でない。これは「開かれた質問」技法である（「医療/福祉/保育のカウンセリング」滋慶教育科学研究所 31参照）。来談者中心療法における「感情の明確化」の技法とは、クライアントが表現できない感情を共感的に理解し、明確にできるようにカウンセラーが言葉で返すことである。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P196参照）
2. 適切でない。これは精神分析的カウンセリングの「解釈」に相当する技法である。「解釈」とは症状に隠された意味を見出せるようにクライアントに説明を与えることである。（『やさしく学べる心理療法の基礎』培風館P37～38参照）
3. 適切。クライアントが体験している感情を共感して、言葉で伝えているので「感情の明確化」と考えられる。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版P196参照）
4. 適切でない。「開かれた質問」である。（「医療/福祉/保育のカウンセリング」滋慶教育科学研究所P31参照）
5. 適切でない。これは「コンプリメント（称賛）」技法の記述である。クライアントの労をねぎらったり、行為を認める発言のことである。（「医療/福祉/保育のカウンセリング」滋慶教育科学研究所P32）

② 発達に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 乳幼児と養育者との間に築かれるアタッチメント（愛着）においては、子どもは受け身的であるので、養育者の情緒的働きかけという環境がその成否のカギを握る。
2. 大型の鳥類などが、動くものの後追いを通して親の姿を覚えるというインプリンティング（刷り込み）は、発達上、どの時期においても見られる。
3. 胎児期においては、体の発達は著しいが、聴覚などの感覚器官や記憶などはまだ機能していない。
4. 発達とは精神的・身体的諸活動の直線的な漸増ではなく、質的な飛躍を見せるという特徴がある。
5. スカモン（Scammon,R.E.）の発達曲線によれば、リンパ系、一般系、神経系、生殖系などの発達は類似の発達曲線を描く。

【正答】4

1. 誤り。乳児は微笑や泣きなど生得的に人とかかわる能力を持っている。乳児の示すこれらの情緒的信号に対する養育者の情緒的応答性という「やりとり」がアタッチメントをつくっていく。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版）
2. 誤り。ハイイログランなどの大型の鳥で、インプリンティング（刷り込み）が行われるのは、生後まもなくの数十時間の間で、その時期を「臨界期」と呼ぶ。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版）
3. 誤り。在胎24週で音に反応して、母親の反応とは別に心拍の変化が現れたり、25週では振動音に対して瞬きが生たりすることから、胎児は子宮内に伝わった音を聴き、記憶しているとされる。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版）
4. 正しい。ピアジェ（Piaget,J.）の発達段階説のように、いくつかの節をもって発達の質的転換が起こることが分かる。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版）
5. 誤り。スカモン（Scammon,R.E.）の発達曲線では、それぞれ異なった発達曲線を描く。例えばリンパ系は12歳がピークで成人になると発達が緩やかになっていくし、生殖系は思春期以降急速に発達していく。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版）

② 感覚・知覚に関する次の記述のうち、仮現運動の説明として正しいものを1つ選びなさい。

1. 満月は地平線方向にあるときには大きく見え、天頂付近にある時は小さく見える。
2. 踏切の赤信号の点滅を見ていると、赤が左右に移動しているように知覚される。
3. 自分の記憶力についての知識、感情のコントロール評価など、自分自身の認知プロセスについての知識やその制御のこと。
4. ある人が6メートル手前にいるときに、12メートル先にいるときの2倍の身長には見えず、見かけの大きさはあまり変わらない。
5. 滝を見続けた後に、動いていない周囲の岩を見ると、岩が滝の流れと逆方向に動いて知覚される。

【正答】2

1. 誤り。これは月の錯視である。錯視とは刺激の物理的特性が、著しく異なって知覚されることをいう。ちなみに、この月の錯視のように、ものの方位、運動方向、物理的空間や網膜上の位置によって知覚の性質が変化することを特に「知覚の異方性」という。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版）
2. 正しい。仮現運動は運動錯視に分類される現象である。ほかに映画のように静止画像を連続して見ると動いて見える現象も仮現運動の例である。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版）
3. 誤り。これはメタ認知の説明である。この働きによって、人は自分の認知活動を把握し、目的に対する評価を行い、行動を制御することができる。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版）
4. 誤り。これは知覚の恒常性（大きさの恒常性）の説明である。この他にも、コップの口を斜めから見ても楕円ではなく円と知覚されること（形の恒常性）、綿菓子や夜の縁日で見ると、屋間見たときの黒よりも光の反射率は少ないにも関わらず白く見える（色の恒常性）などもある。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版）
5. 誤り。これは運動残効という現象である。これには脳の運動選択性ニューロンが持続的動きに順応することに関係があるという、生理学的なメカニズムが仮定されている。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版）

④ 動機づけに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 達成動機が高い人の傾向として、自分が取り組んだ課題に失敗すると、その原因を運などの外的要因のせいにする。
2. 叱られるのが嫌なので、仕方なく勉強をする子どもは、内発的に動機づけられている。
3. マズロー (Maslow,A.H.) の欲求階層説においては、各階層の欲求は、より低次の欲求の充足とは関係なく生じる。
4. 空腹でなくても、ケーキがおいしそうなら食べることがある。これは動因が弱くても、誘因によって行動が引き起こされることを表している。
5. 一般に遠くて水準の高い目標を立てた方が、より具体的で達成可能な目標を立てるよりも、課題の成績がよくなる。

【正答】4

1. 適切でない。ワイナー (Weiner,R.) は達成行動の成功・失敗について、能力、努力、課題の困難度、運の四つの要因を指摘した。選択肢のように、外的で不安定な要因である運に帰属させると、次の課題で成功する期待を持ちにくいと考えられる。それより、内的で不安定な要因である努力に帰属すると、次の課題では努力すれば成功するという期待を持ちやすい。(『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版)
2. 適切でない。内発的動機づけとは、知的好奇心や使命感などのように、活動すること自体に喜びがある場合をいう。この選択肢のように、外から誘因となる賞や罰を与えて動機づけることを、外発的動機づけという。(『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版)
3. 適切でない。マズローは、欲求には優先順位があり、生存に不可欠な欲求から始まり、次第に人間らしい社会的欲求が高まっていくとした。(『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版)
4. 適切。私たちは色々な欲求を持っているが、その欲求を直接引き起こす原因(エネルギー)を「動因または動機」という。これに対して、食べ物のように外部にあって、行動を誘発する要因のことを「誘因」という。(『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版)
5. 適切でない。バンデュラ (Bandura,A.) らは子どもの算数学習の実験によって、より具体的で達成可能な目標を立てた方が成績が良くなることを示している。これは徐々に小さな目標を達成するという経験を重ねることによって、自己効力感が高まるからだと考えられる。(『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版)

社会集団に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 準拠集団は、個人の態度形成や行動の準拠となる集団であり、集団からの強制力を伴わない非所属集団は含まない。
2. インフォーマル・グループとは、ある個人がそこに所属し、帰属感や愛着を持ち、そこに所属している人を仲間として意識し得る集団のことである。
3. 第一次集団は、学校、会社、組合などのように、特定の利害関心に基づいて組織された集団である。
4. 社会集団は、成員であることの自己認知とともに他者からの認知があり、また、成員間の相互作用が存在するなどの特徴をもっている。
5. 将来所属することが確実視される集団の価値や行動様式をあらかじめ学習しておくことを、仮想的社会化という。

【正答】4

1. 誤り。マートン (Merton, R.K.) は準拠集団 (レファレンス・グループ) を意思決定や行為の基準を提供する集団として論じている。その結果、非所属集団でも将来所属したいと考える集団であれば、準拠集団となり得る。(『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム第3版』中央法規P165参照)
2. 誤り。設問文は、サムナー (Samner, W.G.) の「内集団」についての記述である。インフォーマル・グループというのは、家族や友人、近隣集団など公的ではない集団のことをいう。例えば企業はフォーマル集団であるが、その企業に属する社員には、内集団という意識が形成され得る。(『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム第3版』中央法規P165参照)
3. 誤り。「第二次集団」の説明。「第一次集団」はクーリー (Cooley, C.H.) が提唱した概念で、対面的で親密な関係を結ぶ家族、遊び仲間、近隣、地域集団を指す。(『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム第3版』中央法規P167参照)
4. 正しい。例えばマートン (Merton, R.K.) は、集団存在の基準として①相互行為の累積②成員としての自己規定③集団外の人たちによる同様の規定、という3つをあげた。(『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム第3版』中央法規P165参照)
5. 誤り。仮想的社会化ではなくマートン (Merton, R.K.) の「予期的社会化」の説明。準拠集団には、予期的社会化 (あらかじめ学習) の潜在的順機能がある。(『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム第3版』中央法規P165参照)

44 社会思想家に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. ウェーバー (Weber,M.) は、人々の精神のあり方の変遷によって社会も発展していくという三状態の法則を説いた。
2. スпенサー (Spencer,H.) は、『社会分業論』において、人々の連帯が「機械的連帯から有機的連帯へ」と変化してきたと説いた。
3. コント (Comte,A.) は、機能主義の社会理論を構築し、顕在機能-潜在機能、順機能-逆機能の概念を提唱した。
4. パーソンズ (Parsons,T.) は、システム論を導入し、AGIL4機能を社会システムが均衡し存続するために必ず必要なものと考えた。
5. マートン (Merton,R.K.) は、西ヨーロッパで資本主義が誕生したのは、プロテスタントたちの倫理観が大きく影響していると考えた。

【正答】4

1. 誤り。三状態の法則を提唱したのは、コント (Comte,A.) である。神のような超自然の概念が人間の精神を支配する「神学的段階」、次に、論理的理性の力が優勢で抽象的な思弁が人間の精神を支配する「形而上学的段階」、そして経験的に確証された事実に基づきそれらを論理的に体系化する「実証的段階」へと人間の精神は、進歩する。それにともなって社会も「軍事型」社会、「法律型」社会、「産業型」社会へと発展する。「人間精神の三段階の法則」を唱えた。(『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版)
2. 誤り。『社会分業論』において、人々の連帯が「機械的連帯から有機的連帯へ」と変化してきたと説いたのは、デュルケーム (Durkheim,E.) である。スペンサー (Spencer,H.) は、社会進化論の観点から、社会は軍事型社会から産業型社会へ発展し、適者生存による淘汰が行われるという歴史の発展を説き、社会有機体説を提唱した。(『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版)
3. 誤り。顕在機能-潜在機能、順機能-逆機能の概念を提唱したのは、マートン (Merton,R.K.) である。彼は、社会のある現象が個人や集団、社会にとって役に立つように作用するものを順機能、その逆に個人や集団、社会にとって悪影響を及ぼすものを逆機能と呼んで区別した。また、行為の当事者の意図と結果とを区別し、当事者の意図通りの結果が生じた場合を顕在的機能、当事者の意図通りの結果が生じなかった場合(いわゆる「意図せざる結果」を招いた場合)を潜在的機能とした。(『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版)
4. 正しい。パーソンズ (Parsons,T.) は、社会システムのサブシステムとしてAGIL4機能図式を示した。4つの機能とは、①適応機能 ②目標達成機能 ③統合機能 ④潜在的パターン維持と緊張処理機能のことをいう。(『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版)
5. 誤り。西ヨーロッパにおける資本主義の誕生の源をプロテスタントのエートスに求めたのは『プロテスタントの倫理と資本主義の精神』の著者であるウェーバー (Weber,M.) である。(『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版)

5. コミュニティと地域に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 鈴木榮太郎は、コミュニティを「社会的存在の共同生活の焦点」と定義し、そこを基盤に「共同の関心の追求のために設立された社会生活の組織体」をアソシエーションとした。
2. トフラー（Toffler,A.）は、通信技術の発達によりコミュニティが地域という空間に限定されない形で展開するコミュニティ解放論を唱えた。
3. 磯村英一は、都市独自の機関として結節機関の存在を指摘し、都市には第三の空間があると主張した。
4. マッキーヴァー（MacIver,R.M.）は、その地域に居住している住民階層の違いに基づいて、都市は中心部から周辺に同心円状に拡大していることを発見した。
5. 大野晃は、65歳以上の高齢者が集落人口の半数を超え、社会的共同生活の維持が困難な状態に置かれている集落を限界集落と定義した。

【正答】5

1. 誤り。問題文のようにコミュニティとアソシエーションを定義したのはアメリカのマッキーヴァー（MacIver,R.M.）である。鈴木榮太郎は、農村社会学者・都市社会学者である。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
2. 誤り。問題文は、アメリカの社会学者ウェルマン（Wellman,B.）の説である。トフラー（Toffler,A.）は、1980年『第三の波』で脱工業社会（情報化社会）を論じた。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
3. 誤り。「結節機関」は鈴木榮太郎の用語である。人々が利用する役所や銀行、デパート、ターミナル駅、企業、病院、学校などの機関や組織体を結節機関と称し、これらは特定地域に集中する傾向があったとした。また、「第三の空間」は磯村の用語で、家庭（第一の空間）にも職場（第二の空間）にも属さないような人間関係によって成り立つ都市の生活空間を第三の空間と名付けた。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
4. 誤り。マッキーバー（MacIver,R.M.）ではなく、バージェス（Burgess,E.）の同心円地帯理論の説明である。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
5. 正しい。1985年に大野晃が適した概念である。2010年の時点で、9516の集落が限界集落で、過疎地域の集落全体のおよそ15%を占めている。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）

16 町内会に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 町内会のような地域における住民自治組織は、都市で発達したもので、戦前の農村には住民自治組織は存在しなかった。
2. 町内会は、戦争遂行を草の根で支えた組織ということで、1947年にGHQ（連合国軍総司令部）によって解散させられた。
3. 町内会は、地方自治法に基づいて全世帯に加入が義務付けられている。
4. 過疎化が進み、町内会を維持できなくなった地域を限界集落という。
5. 東日本大震災以来、NPOやテーマ型のコミュニティが急増してきたことで、町内会の役割は軽視される傾向にある。

【正答】2

1. 誤り。もともと日本社会には都市部における「マチウチ」や町内会が、農山漁村地域においては、集落や村落、あるいは「むら」とよばれる住民自治組織が、地域を運営してきた。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
2. 正しい。町内会は、戦争遂行を草の根で支えた組織ということで、1947年にGHQ（連合国軍総司令部）によって解散させられたが、1952年のサンフランシスコ講和条約の締結によって、GHQの解散命令が解除になってから多くが復活した。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
3. 誤り。町内会への加入は任意である。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
4. 誤り。限界集落の定義は、高齢化率50%以上の集落をいう。町内会の活動を維持しているかどうかは問題にならない。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
5. 誤り。東日本大震災以来、防災や防犯などの面で町内会が果たす役割が、見直されている。地域政策の面でも町内会を基盤に設立されることが多い自主防災組織への注目が高まっている。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）

17 人口動態の用語に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 人口転換とは、首都圏をはじめとする三大都市圏から、高齢化にともない地方都市へと人口が回帰する現象である。
2. 合計特殊出生率とは、15歳から49歳の女性の、年齢別出生率を合計した指標で、一人の女性が平均して一生の間に何人の子供を産むかを表す。
3. 人口置換水準とは、その国の人口が自然増減のみで維持できる出生水準のことで、1.02程度が維持基準とされている。
4. 国民扶養負担の重さを示す従属人口指数とは、生産年齢人口に対する老年人口の比率を算出したものである。
5. 人口オーナスとは、従属人口指数が低い状態をいい、一国の経済活動にとって有利な人口構造である。

【正答】2

1. 誤り。問題文のような傾向は、見られていない。人口転換とは、多産多死から多産少死を経て少産少死へと社会の自然増加の構図が大きく転換する遷移家庭のこと。現在我が国は、少産多死の第2の人口転換の時期を迎えた。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
2. 正しい。合計特殊出生率とは、女性が出産可能な年齢を15歳から49歳までと規定し、各年齢の出生率を出して足し合わせることで、人口構成の偏りを排除し、一人の女性が一生に産む子供の数の平均を求める。近年、景気が回復したことや国産ジュニアの出産などの理由により、2006年以降は上昇方向へ転じている。2015年の合計特殊出生率は1994以来の最高値となる1.45であった。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
3. 誤り。人口置換水準は、一人の女性が何人子を出産すれば、現在の人口が維持できるかという値。現在のわが国の人口置換水準は、2.07という数値が示されている。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
4. 誤り。国民扶養負担の重さを示す従属人口指数とは、扶養される側と考えられる年少人口、および老年人口の、扶養者側とみなされる生産年齢人口に対する比率。 $(0\sim 14\text{歳人口} + 65\text{歳以上人口}) \div 15\sim 64\text{歳人口}$ 。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
5. 誤り。人口オーナス（負荷）は、現在のわが国のように従属人口指数が高い状況をいう。問題文は、人口オーナスの説明。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）

18 近代化にともなう社会状況に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 近代化にともない、社会階層の形成の在り方が、業績主義から属性主義に変化する。
2. 人口動態は、多産少死から少産少死へと変化する。
3. 非西洋社会では、西洋に植民地化された多くの国で近代化に失敗し、いまだに開発独裁といった政治体制が継続している。
4. 近代化とは、すなわち情報化社会の進展である。
5. M.ウェーバー（Weber,M.）によれば、カリスマ的支配や伝統的支配に代わって、近代では合法的支配に基づいて官僚制が進化すると説明した。

【正答】5

1. 誤り。近代化にともない、公教育の普及、職業選択の自由の増大と機会の平等化によって、人々が生まれながらの身分階層に固定された状態（属性主義）から、教育や職業選択によって流動的に社会移動するようになっていく（業績主義）。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
2. 誤り。人口動態において、前近代は多産多死の状況である。これが近代（日本では明治以降）になると、栄養・食習慣の変化、衛生の改善、医療技術の進歩などを経て、多産少死に変化する。少産少死の時代は、さらにそれから100年後の第2次大戦後に訪れた。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
3. 誤り。非西洋社会（後発社会）では、近代化はなかなか進まなかったが、1970年代以降になると、韓国、台湾、シンガポール、香港、南アフリカ、ギリシア、メキシコ、ブラジル、トルコ、イスラエルといった国や地域が工業化による経済発展を遂げ、NICSやNIESと呼ばれるようになった。開発独裁というのは、シンガポールに見られるような強力な政治的リーダーシップのもとに国の経済発展を目指す政治体制をいう。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
4. 誤り。情報化社会とは、未来学者A.トフラー（Toffler,A.）によれば、近代化（工業化）を成し遂げた次の段階の来るべき社会の姿である。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
5. 正しい。M.ウェーバー（Weber,M.）は、支配を①カリスマ的支配 ②伝統的支配 ③合法的支配の3種類に分類した。①、②の支配類型は主に前近代に見られるもので、法治主義が貫徹する近代国家においては、③の合法的支配が正当性を持ち、その政治体制の下で官僚制が発達すると考えた。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）

① 社会階層と社会移動に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 社会の産業構造の変化によって、親の職業とは異なる職業に就くことを余儀なくされる移動を強制移動という。
2. 子が父親の職業とは異なる職業に就くことによって階層移動がなされた場合、これを世代内移動という。
3. 近代における社会移動とは、農村から都市へ人口が集中することである。
4. 社会階層を決定するものには、「富」「権力」「威信」「知識」の4つの要素あげることができるが、これらを文化的資源という。
5. 生産手段に対する関係という側面で共通の立場にある人々の集合を表す社会的カテゴリーを社会階層といい、近代社会以降に捻出された歴史的な概念である。

【正答】1

1. 正しい。たとえば、戦後日本社会の高度経済成長は、農業という親の職業を継がずに工場労働者として就業した子の急増をもたらした。このような社会移動を強制移動（構造移動）という。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
2. 誤り。子が父親の職業とは異なる職業に就くことによって階層移動がなされた場合、これを世代間移動という。世代内移動は、本人が初めて就いた職業的地位と職業経験を通して到達した職業的地位に変化が生じたときの移動をいう。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
3. 誤り。社会移動とは、居住地の移動を表す用語ではない。社会移動とは、個人の社会的地位が、異なる時点間で変化することをいう。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
4. 誤り。社会階層を決定するものには、「富」「権力」「威信」「知識」の4つの要素をあげることが正しい。しかし、文化的資源とは「知識」のことで、「富」や「権力」は、文化的資源ではない。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
5. 誤り。問題文の「生産手段に対する関係という側面で共通の立場にある人々の集合を表す社会的カテゴリー」は、「社会階級」の説明。産業革命以降の近代社会では、生産手段（工場や土地）を所有するブルジョワジー（資本家階級）と生産手段を持たないプロレタリアート（労働者階級）に区分される。社会階層は、「富」「権力」「威信」「知識」などの社会的資源をどれだけ持っているかによって形成される。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）

② 生活に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. ライフスタイルは、生活の場における物質、制度、人間などに対する個人の価値観に基づく行為のパターンとされる。
2. ライフサイクルは、人生をパターン化する考え方とは対極の視点に立っている。
3. ライフステージとは、それぞれの人が生活する空間と場所を指す言葉である。
4. ファミリー・ライフサイクルは、貧困調査の中でラウントリー (Rountoree, B.S.) が発見した。
5. ライフコースの考え方は、同じコミュニティのなかで生活する人々の人生を記録して、そこに共通した人生の在り方を見出す。

【正答】 4

1. 誤り。ライフスタイルは、個人の生活様式に対する選択制（生活志向）を意味する。とくに消費財に対する個人の嗜好パターンを指すことが多い。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
2. 誤り。ライフサイクルは、学校入学、卒業・就職・結婚・子育て・リタイヤという具合に、多くの人が同じような人生を歩んでいる時代にできた言葉で、人の生涯を平均的なパターンにとらえる。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』）
3. 誤り。ライフステージは、少年期、青年期、壮年期、老年期などライフサイクルを区切る用語。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』中央法規出版）
4. 正しい。家族周期（ファミリー・ライフサイクル）に気づいたのはラウントリー（Rountoree, B.S.）であった。彼は、ヨークでの貧困調査の中で、ライフサイクルに応じて生活水準が変動することを明らかにした。（『社会福祉士国家試験のためのレビューブック2018』メディックメディア）
5. 誤り。ライフコースという言葉は、人々の生活が多様化してきた1970年代以降に多用されるようになった。これはライフサイクルのような段階設定をすることなく、各人の多様な人生、その発展過程を表す。（『新・社会福祉士養成講座③社会理論と社会システム 第3版』）